

# チームプロジェクト成果発表

*~My study way with FUJITSU~*

静岡県立大学 国保ゼミ11期生  
熊谷晴子 篠原佑奈 下田善朝

# 目次

- はじめに
- 未来予想図
- 調査から明らかになった  
リモートスタディの課題
- 未来予想図を踏まえたご提案
- 参考資料
- チームの振り返り

# 今日の目次

## はじめに

- 未来予想図
- 調査から明らかになった  
リモートスタディの課題
- 未来予想図を踏まえたご提案
- 参考資料
- チームの振り返り

## プロジェクト概要

- ・ 株式会社富士通ソフトウェアテクノロジーズ様との約二か月間の共同プロジェクト
- ・ 頂いた「実体験から考える学習効果を高めるリモートスタディ」というテーマをもとに、大学生という立場・経験を活かしたサービスの企画

## 2つの視点からテーマを解釈

『実体験から考える学習効果が高まるリモートスタディを提案』



① 『学習効果が高まる』

② 『リモートスタディ』

# テーマ解釈①『学習効果が高まる』とは？

## →習熟度が高まること

◆先行研究を情報収集したところ。。。。

学習効果(習熟度)の向上には、そもそも学習意欲が基盤として重要であることを示す先行研究が多数存在

→学習効果を高める要因として、  
特に**学習意欲**に着目！

## テーマ解釈② 『リモートスタディ』とは？

### 定義

インターネット回線を通じて遠隔で行う、  
時間、場所、年齢にとらわれない教育手段

### メリット

- ・ 時間やコストの節約
  - ・ 災害時にも授業を継続
  - ・ 過疎地の学校教育に貢献
  - ・ 会社の研修にも活用
- etc...

→ **リモートスタディの利点**を活かした提案！

## プロジェクトの目的

テーマ  
『実体験から考える学習効果が高まる  
リモートスタディを提案』



“リモートを活かし、学習しやすい環境を  
作ることで、学習意欲を維持できる  
次世代のサービスを提案”



## \* プロジェクトの流れ \*

### ①前提調査

テーマ解釈も含めプロジェクトに関して、「リモートスタディ」「大学教育の課題」など前提調査を行いました。

### ②アンケート調査

大学のコロナ渦におけるオンライン授業への変化に伴い、学生の学習意欲に関する調査をしました。  
対象：静岡県立大学経営情報学部二年生125名  
方法：googleフォームによるアンケート調査

### ③インタビュー調査

アンケート調査により得られた仮説の検証を行いました。  
対象：アンケート調査の対象からから6名  
方法：グループインタビュー

#### ④FC

ゼミ生が運営するKOKULABO<フューチャーセンター>へ、3回参加して、「未来の授業とは」などのテーマを設定し社会人や学生から幅広い意見の収集を行いました。

#### ⑤提案内容 まとめ


さまざまな調査を通し、今後求められる「習熟度を高めるリモートスタディ」を形にしました。

#### ⑥プロトタイプ テスト

静岡県立大学の学生室職員3名  
大学を運営する立場の方にご意見を頂きました。

#### ⑦最終報告

# 今日の目次

- はじめに
-  未来予想図
- 調査から明らかになったリモートスタディの課題
- 未来予想図を踏まえたご提案
- 参考資料
- チームの振り返り

## これからの働き方・学び方

リモートのメリット

→年齢、時間・場所的制約がなくなる

- ★ 仕事・勉強場所はどこでも◎
- ★ 自ら計画し、行動することが求められる
- ★ 意欲的に取り組むことのできる人ほど能力が向上し、意欲的でない人はドロップアウトしてしまう
- ★ 今まで以上に、「大学を卒業すること」でなく「大学で何を学ぶか」が重要になる

## 求められる人材

- 多くのスキルを持つ人
- 臨機応変な対応ができる人、順応性が高い人
- 自己管理能力がある人
- 変化を楽しむことができる人
- 常に自分をアップデートできる人
- 主体性がある人
- 自分の意思・考えをしっかりと持つことができる人
- さまざまな意見を取り入れることができる人

# 今日の目次

- はじめに
- 未来予想図
- 📌 調査から明らかになった  
リモートスタディの課題
- 未来予想図を踏まえたご提案
- 参考資料
- チームの振り返り

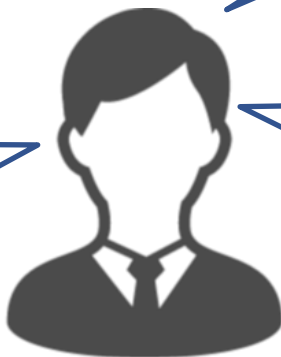
# 学生の声

監視の目がないことで、緊張感がなくなり学習意欲down↓

一人で進めることでの競争意識の無さから学習意欲down↓

周りとは相談できず人に頼れないことで意欲down↓

自宅にいてリラックスし緊張感がなくなり、集中力down↓



# 意欲を維持できていた人とは。。。

## 自律的/主体的に学べる 自己管理能力

「自分のペースで進められる！」

「空き時間で+αの勉強ができた！」

「朝起きたら今日やるべきことのスケジュールを決め行動！」

## 周囲を活かした 学習環境づくり

「誘惑するものがない場所で勉強」

「学習中は携帯を遠くへ」



個人がリモートスタディで意欲を維持するのに特に重要！



# 今日の目次

- はじめに
- 未来予想図
- 調査から明らかになった  
リモートスタディの課題
- 📌 未来予想図を踏まえたご提案
- 参考資料
- チームの振り返り

## 案①：企業内ワーク & スタディスペース

★ 仕事・勉強場所に決まりがない

→ デバイスさえあれば、そこが大学に。



→ 会社に勤めながら大学に通うことも。

★ リモートワークの普及によって空いたスペースは、  
学ぶ人のためのスペースに

→ ラーニングコモンズタイプのスペース、および、  
個別学習用パーソナルスペースを選ぶことができる



★ 近隣の現役大学生も使え、社員と交流もできる

→ 実質的なキャリア教育にもなる



## 案②：どこでもスタディ・システム

大学の境界が無くなる！？

大学・学部にとらわれず、  
★自分だけのカリキュラムを作って学ぶ

- ・ 受きたい先生の授業
- ・ 取りたい科目の授業
- ・ 取りたい資格の授業

★学習スケジュール管理

★ラーニングコミュニティでの交流も可能

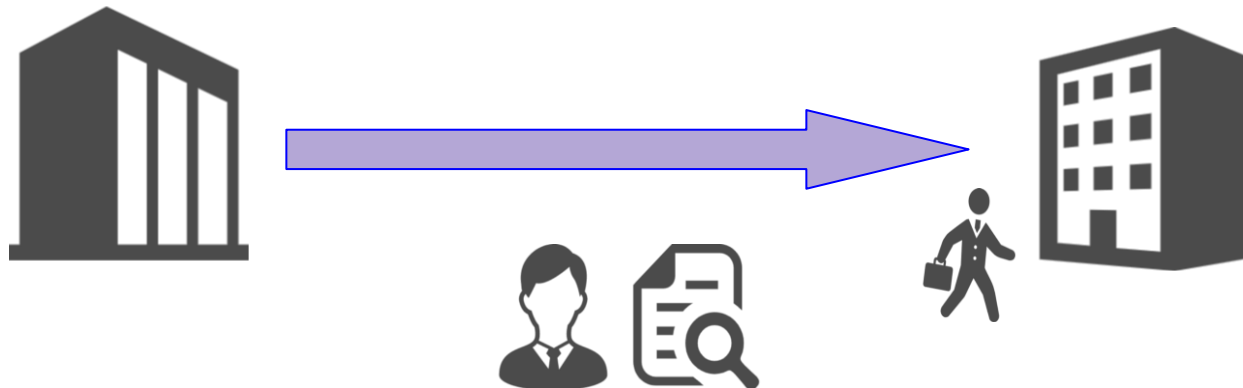


## 案③：学習歴データベース

- 大学の履修歴のデータベース化→学んできたことの可視化。
- Project Based Learningの実施促進



- ✎ 企業が学生の選考に活かせる。
- ✎ 学生も大学の授業にまじめに取り組むようになる。

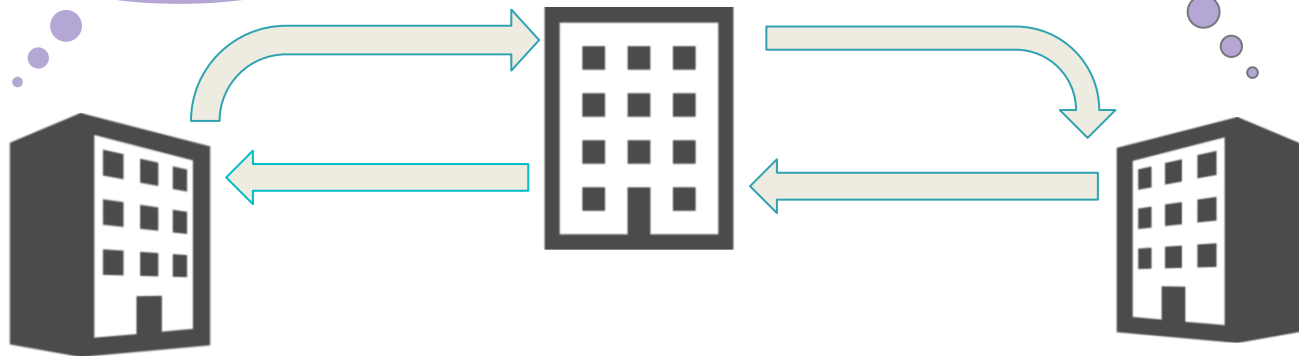


## 案④：企業間人材データベース

一人一人がどういった能力・技術を持つかを  
データベース上で一括で把握

「自社の社員にこういう業務を  
経験させたい！」

「こういう会社のこういう人  
と連携をとりたい！」



要望を持った会社同士が、企業の枠を超えて連携できる

## 提案の課題

- 自律的/主体的に学べる自己管理能をどう身につけるか
- 周りや環境を活かした学習環境づくりに必要なもの
- 能力だけでなく、人物面も可視化できるような仕組みがあったほうが良い
- 教える側の技術力・対応力が求められる

# 今日の目次

- はじめに
- 未来予想図
- 調査から明らかになった
- リモートスタディの課題
- 未来予想図を踏まえたご提案



## 参考資料

- チームの振り返り

## ①前提調査

<https://www.weblio.jp/content/%E3%83%AA%E3%83%A2%E3%83%BC%E3%83%88>

<https://www.nice2meet.us/how-online-courses-can-change-education>

<https://daigakujihou.shidaren.or.jp/download/?issue=379&section=7>

[1] <https://www.senshu-u.ac.jp/education/howto/education04.html>

[2] <https://karenavi.com/daigaku-koukou>

[https://berd.benesse.jp/up\\_images/research/report\\_KGU\\_20170316\\_02.pdf](https://berd.benesse.jp/up_images/research/report_KGU_20170316_02.pdf)

<http://www.edu.city.kyoto.jp/sogokyoiku/kenkyu/outlines/h25/kiyou/566.pdf>

<https://t.co/uXqa0ilBQQ?amp=1>

<https://www.jsise.org/taikai/2013/program/contents/pdf/F2-1.pdf>

## ②アンケート調査

[https://www.notredame.ac.jp/pdf/cms/2020online\\_houkoku.pdf?fbclid=IwAR0Or1SOPXDFK YCdcTwRV0WIIUDMTjXn0TopdlsHF9pjTCDDXSrkiuoEfx8](https://www.notredame.ac.jp/pdf/cms/2020online_houkoku.pdf?fbclid=IwAR0Or1SOPXDFK YCdcTwRV0WIIUDMTjXn0TopdlsHF9pjTCDDXSrkiuoEfx8)

[https://note.com/529328/n/nba0b769ea839?fbclid=IwAR1MUr82g\\_wuuVohXef4nMrCEV7Xu 6breuYR51mJEIjnFxferhCO4LLH6Uo](https://note.com/529328/n/nba0b769ea839?fbclid=IwAR1MUr82g_wuuVohXef4nMrCEV7Xu 6breuYR51mJEIjnFxferhCO4LLH6Uo)

<https://note.com/naomoonyn/n/n00092e7ca604?fbclid=IwAR37WwpuUkaSrLDZ1veMAkukgw 0GjAt9mkXCEN51YTtkoyQ9TIGArRvInVs#BMb3N>



### ③課題

[http://souken.shingakunet.com/college\\_m/2017/01/post-6e29.html](http://souken.shingakunet.com/college_m/2017/01/post-6e29.html)

[https://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/giji/\\_icsFiles/afieldfile/2012/03/02/1317311\\_14\\_2.pdf](https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/giji/_icsFiles/afieldfile/2012/03/02/1317311_14_2.pdf)


### ④提案

<https://news.yahoo.co.jp/articles/615b5dfac0688620f8568e2c26b686d6019d7cda>

<https://www.autodesk.co.jp/redshift/future-of-learning/>

<https://r.nikkei.com/article/DGXKZO61536990V10C20A7KE8000?s=5>

# 今日の目次

- はじめに
  - 未来予想図
  - 調査から明らかになった
  - リモートスタディの課題
  - 未来予想図を踏まえたご提案
  - 参考資料
-  チームの振り返り

# チームとしての振り返り

## チーム目標

### ①報連相をこまめにする

(プロジェクトの進行状況の把握、期限や約束などを守る、納得出来ないことをそのまますることや解釈の食い違いを防ぐため)

### ②責任を伴った自主性をもつ

(自主性を持った行動を意識する中で、言いつばなしになったり中途半端なままにしてしまったりしないように、しっかり自分の言動には責任をもつ。)

### ③フォローし合う

(人任せにせず協力する。仕事を他の人に任せた場合は、フォローできることはする。)

### ④一人で抱え込まず任せることも手段に入れる

(大変な時は、一人で進めようとせず何に躓いているのか何ができないのか報告して協力を仰ぐ)

## Keep

- 最初にたてたチーム目標は実行できた
- 「ありがとう」をいっぱい言い合えた

## Problem


- 当初予定していたスケジュールから大幅に遅れてしまった
  - アンケート調査の質問の設定が甘かった
  - あらゆる面で方向性が、紆余曲折してしまった
  - プロトタイプテストの期間が短くなってしまった
  
- 1 on 1 では、個別に相談を上手く出来ていたが、サポーターズでは、積極的に相談出来なかった。

※1on1：10期生との1対1の定期的な相談会

サポーターズ：10期生の4名の方にチームで相談する場

# Try

- ・ プロジェクトのスケジュールの全体像を把握する
- ・ 調査では、「何のためにそれをきくか」をより深く考える。
- ・ 意見を鵜呑みにせず、しっかりと考えて取捨選択する



以上で発表を終わります。  
ご清聴ありがとうございました。